

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①カリキュラムマネジメントの視点から魅力ある教育課程を編成し、運用・改善する。 ②ICT を利活用しながら、授業改善に組織的に取り組み、基礎学力の定着を図り、思考・判断・表現する力を伸長することで、主体的に活動できる人材を育成する。	①編成した教育課程を運用し、他グループや各教科と連携し一人ひとりの生徒に寄り添えるよう改善に努める。 ②ICT を利活用しながら、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実をはかる。	①各年次での課題について調査・分析し、次年度へ向けて改善に努める。 ②ICT の活用を進めるとともに、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実の実現に向けた授業改善を行う。	①明らかになった課題に対し、具体的な方向性を打ち出すことができたか。 ②授業改善の実施により、授業評価の「授業の中で「身に付いた」「できるようになった」と感じることができた。」という項目が向上したか。	①教育課程を見直し、進学に向けて、文系から理系、理系から文系に途中で転換が可能になるように編成の方向性を固めた。 ②ICT を活用した授業を生徒の立場で体験する研修を実施し、活用方法について教科を超えて職員研修を行い、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実へ向けた学習活動を授業に取り入れるなど、授業改善を行い、生徒が授業の中で「身に付いた」「できるようになった」と感じることができた項目が向上した。	①履修指導や履修の組み合わせといった課題について新校の教育課程編成において検討・改善を引き続き行う。 ②ややテーマが広がってしまっただので、次年度はテーマを絞り、ICT の活用について実施している学習活動や教授の仕方などを共有する機会をさらに設け、校内の教育資源を有効に活用し、より良い授業へとつなげていきたい。	・ロイロノートを使って生徒の考えをアウトプットさせるなど、ICT を活用した取組が進んでいることは評価できる。一方で、教員間の取組状況に差があることについては今後の課題である。よい取組を校内で共有できるような仕組みを作れるとよい。 ・課題として学力差が年々広がっていることが挙げられていたが、今後、自由進度学習など高校側の創意工夫もさらに必要と考える。	①多様な進路選択や進路転換に対応できるよう、カリキュラムを継続して検討した。 ②ICT の活用を進めるとともに個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実を目指し、成果が見えた。 教員間のICT活用やさらなる個別最適な学習について改善を進めていきたい。	①新校に向けて、多様なニーズに対応できるカリキュラムを継続して検討していく。 ②ICT の教員間の取組に差がつかないよう、よい取組を研修等を通じ校内で共有できるようしていく。 自由進度学習など新たな方法を含め、どのように生徒の力を伸ばしていけるかを検討していく。
2	生徒指導・支援	①基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会の一員として行動するための規範意識を高める。 ②生徒1人ひとり個に応じた支援の充実を図る。 ③自己理解・他者理解を深め、自他を尊重できる人間関係を築き、コミュニケーション能力を育む。	①日常的な指導を通じて生徒がルールを遵守し、規則正しい生活習慣を身につけさせる。 ②生徒が相談しやすい教育相談体制を整える ③自主自律の精神のもと生徒主体の行事運営を行う中、人間関係を築くとともに、コミュニケーション能力を育む。	①頭髮服装指導や遅刻指導を計画的に行うとともに、職員が共通理解のもと、統一した指導を意識し行う。 ②生徒情報の共有を徹底し、SCやSSW、外部機関と連携した教育相談を行い、組織的な支援体制の構築を図る。 ③生徒主体の行事の企画・運営ができるよう、適切な助言指導を行う。	①指導対象生徒数が減少したか。また全職員が共通理解をもち、取り組むことができたか。 ②組織的な情報共有を行い、問題を抱える生徒に必要な支援ができたか。 ③学校行事・生徒会・ボランティア活動などの生徒活動において6割以上の生徒が主体的、積極的に取り組み達成感・満足感を実感できたか。	①頭髮服装、遅刻指導など学校としての基準を整理し周知することにより全学年がその基準に沿ったかたちで統一した指導にあたることができた。 ②かながわ子どもサポートドックの導入により生徒の抱える問題が見える化することで教員だけでなくSCやSSWとの連携がとりやすくなり、より個々のニーズにあった対応を行うことができた。 ③学校行事には多くの生徒が関わり裏方を務め、各種行事を盛り上げた。生徒会執行部には問題意識を持って考えるよう指導し、彼らなりに活動することができた。ボランティア活動についても例年通り実施できたので、概ね目標を達成することができた。	①学年により指導件数や状況に差があることから、入学当初より指導の基準をしっかりと示し、その基準に沿った形で指導をしていく。 ②SC やSSW に相談することにより生徒が一定数いるので、相談しやすい環境を整えていく必要がある。 ③今年度は文化祭運営委員会を組織し、生徒の自主性を育みつつ、行事の活性化に向けて一歩前進した。今後は、ボランティア活動に関する情報提供をどのように周知していくかが課題である。	・生徒指導について指導ルールの統一化を図ったことは、一定の評価ができる。 ・一般的に、40歳から55歳までは、ほぼ社会の支援は受けられなくなる。高校から外部機関等に支援をつなげられるようにすることは大切である。生徒が相談しやすい体制を整えてほしい。 ・ボランティア活動に参加する生徒はごくわずかで、周知に課題があるとのことだったが、今後は具体的な方策を検討し、より多くの生徒が参加できるようにしてほしい。	①学校として統一した生徒指導を行うことができたが学年によって差がでてしまった。 ②生徒の抱える問題を見える化することによりSC・SSWとの連携を密に行うことができたが、SC・SSWに相談することを躊躇する生徒が見受けられる。 ③文化祭・球技大会など生徒主体の運営が少しではあるが拡大できた。さらなる活性化をしていきたい。ボランティア活動は生徒への情報提供の方法を早くそして確実に届けるようにしていくことが課題であろう。	①入学当初より基準をしっかりと示し、継続的に指導していく。 ②生徒が相談しやすい環境を整える。 ③担任による伝達だけでない方法をどうしていくか検討し実施していく。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①10年後（AGE28）の自分をイメージしたキャリア形成ができるように、3年間を通したキャリア教育実践計画に基づき、キャリアデザイン能力を身につけさせる。	①進学希望の上位層を掘り起こしモチベーションを高め、学習への取り組みを促す。また、自己の能力を知り、探究する力、表現する力を養う。	①上級学校の入試担当者等によるガイダンスや卒業生等からのアドバイスをうい動機付けをする。 ①10年後を考えるための手立てを提示し積極的にキャリアをイメージさせる。	①希望通りの進路に進むことができたか。また、目標となる進路を見つけることができたか。 ①キャリアデザインに必要な能力を身につけ、10年後の自分をイメージできたか。	①卒業後の進路について真剣に考え、選択し取り組む姿勢が養えた。 ①夢ナビを利用して、生徒の興味関心から将来をイメージし、同じ課題でも様々な視点から考えられることを身に付けさせた。	①卒業後の進路を選ぶ際に、入れる学校を選んでしまう傾向があり、チャレンジする姿勢を養わせたい。	・一般受験で合格した生徒がいたことはご指導の賜物であるが、入れる大学に入ればよいというタイプの指定校推薦が多いことは課題である。 ・探究学習にきちんと取り組むことが、今後、総合型選抜等で入りたい大学を目指すことにつながるのではないかと。	①一般受験でチャレンジし合格した生徒がいる一方、合格を求めるあまり安易に指定校推薦を考える生徒も多く、指導の在り方を考える必要がある。 探究学習のプログラムがまだ十分には定着しておらず、やや手探りの状況にある。	①1年次から教科ごとの学習技術を指導し、基礎学力を上げて自信につなげる。 探究学習については、あらためて学校全体でのカリキュラムを作成することが必要である。
4	地域等との協働	①学校と地域の連携協働の「現状と課題」を把握し、改善を意識した学校運営協議会を運営する。 ②学校と地域の連携協働の促進により地域とともにある開かれた学校づくりを進め、地域の中で生徒の主体的な取組を支援する。	①学校運営協議会の充実を図り、学校運営協議会をとおして地域と協働連携を図り、地域の力を学校運営に生かす。 ②地域連携部会等の連携をとおして、学校と地域がともに生徒を育てる取組みを推進する。	①学校運営協議会から受けた有用な意見を学校運営に生かせる体制づくりに努める。 ②地域と連携を深め、ボランティア活動のさらなる充実を図る。生徒のニーズを把握して地域との連携を強化する。	①各部署と連携し、学校運営に生かす具体的方策について集約し、実現できたか。 ②地域との連携協働により、生徒の主体的な取組みを推進・検討し、充実した地域交流ができたか。	①学校運営協議会の意見や提言を活かす取組ができるように各部署との連携強化を目指した。昨年度頂いたご意見を参考にし「旭だより」の内容充実を図り、地域へより多くの情報を発信することができた。 ②10月に地域貢献デーを設定し、1年生生徒が地域清掃を行った。また、ボランティア生徒が地域との交流を行った。今年度は新たに、地域の夏祭りにも参加させていただき、地域交流を広げることができた。	①各部署との連携をより強化するため、情報共有や意見交換を密に行い、様々な取組の情報発信を更に充実させていく。 ②地域との連携協働により、生徒の主体的な取組みを推進し、更なる地域交流を目指す。今までの交流を継続しつつ、旭高生が協力しながら行える新たな地域貢献活動や地域交流を模索していきたい。 ③いかにさらに多くの生徒が参加するようにしていくかが課題である。	・運動部、文化部ともに部活動を通じた地域連携活動ができていることは評価できる。 ・川井地域ケアプラザでは、小学生の時に旭高生からダンスを教えてもらった児童が成長し、今は旭高生として小学生にダンスを教える活動に参加してくれており、よい循環ができている。	①昨年度の学校運営協議会でいただいたご意見を参考にし、より充実した情報発信を行うことができた。各部署との連携強化においては、改善の余地がある。 ②③部活動を中心としての連携はこのまま続け発展させていきたい。一般生徒のボランティア活動を増やしていく方法を模索していきたい。	①学校運営協議会の意見や提言を活かす取組ができるように、各部署との連携を強化し、具体的な改善方法を示し、実現していく。 ②③担任による朝の SHR による伝達だけでなく、グループとしてさらなる方法を打ち出し実施していく。
5	学校管理 学校運営	①ICT を利活用した様々な活動を支援するための教育環境を整備する。また、ICT 利活用により業務の効率化を図り、働き方改革を実践する。 ②地域への情報発信を迅速に行い、社会に開かれた学校づくりを推進する。	①ICT を利活用した、多面的・多角的な学習様式を支援できる体制を整える。 ②本校の取り組みを適切かつ迅速に発信し、本校の魅力を広く伝える。	①3 学年すべての生徒に学習用情報端末がそろったことを受け、Wi-Fi を中心とする環境整備をさらに進める。 ②生徒主体の学校説明会の内容を充実させ、中学生や保護者によりわかりやすい説明を行う。各部署にホームページ担当を置き、内容を明確にする。	①校内すべての教室・準備室等で接続トラブル等なく ICT を利活用した授業を展開できたか。 ②学校説明会のアンケートで 90%以上の肯定的回答が得られたか。迅速に情報発信することができたか。 ②ホームページを迅速に更新し、充実することができたか。また、有効な情報発信方法を見つけることができたか。	①極端な Wi-Fi 環境の不具合は解消され、同じ教室等における同時多数端末からのアクセスがストレスなく可能となり、ICT を利活用した各種教育活動を支えることができた。 ②生徒主体の学校説明会が実施できた。 1月時点で、延べ人数で約 4,000 名の中学生、保護者に対して広報活動を行った。 ②ホームページを迅速に更新し、行事など昨年度よりも多くの情報発信を行った。また、部活動の活動内容を生徒の主体的な取組により、情報発信することができた。	①特定機種端末からのモニターへの Bluetooth 接続の不具合が散見され、原因究明に至っていない。次年度も引き続き対応策を模索する。 ②第一回学校説明会や第二回学校説明会のアンケートで 95%以上の肯定的回答が得られた。昨年度よりも多くの肯定的回答を得られたことができたので、今後も継続して満足度の高い学校説明会を実施していきたい。 ②ホームページ更新頻度が少ない部活動があり、情報発信に差が出てしまった。更新方法の改善や、生徒への積極的な声掛けなどを行い、定期的な更新を目指したい。	・地域の住民は旭高校によい印象を持っている。旭高校の学校説明会に参加しなかったが、定員に達してしまい参加できなかったという声も聞いた。定員や回数を増やせないかと検討してほしい。 ・学校の環境整備面では、PTA 主催で「クリーンアップ大作戦」を実施し、ボランティアで参加してくれた生徒たちが一生懸命に清掃活動に取り組んでくれた。今後も生徒の主体性を伸ばしてほしい。	①総論的な教育環境整備で言えば、ICT 利活用の下支えという面において成果はあげられた。しかし各論においては物理的環境美化整備を始め課題は残されていると考える。 ②生徒主体の学校説明会等を実施し、多くの中学生、保護者から好評をいただくことができた。しかし、予約満員となり参加できなかった方も多かった。開催方法については検討が必要である。	① P T A 、部活動、生徒会およびボランティアによる年に一回の“クリーンアップ”では普段の大掃除でもできないような清掃実績を上げている。条件が整えば回数を増やすことも必要である。 ②次年度以降、より多くの中学生、保護者にご参加いただけるように、定員や開催回数を増やすなどのさらなる充実を目指す。